

平成22年2月12日

各位

上場会社名 株式会社 光陽社  
 代表者 代表取締役社長 佐々木 孝  
 (コード番号 7946)  
 問合せ先責任者 広報室室長 西田道夫  
 (TEL 06-6944-5000)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年11月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,088	53	32	32	2.45
今回発表予想(B)	3,788	△125	△135	△260	△19.88
増減額(B-A)	△300	△178	△167	△292	
増減率(%)	△7.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	4,203	△244	△264	△561	△47.64

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,853	62	30	30	2.29
今回発表予想(B)	3,584	△111	△141	△252	△19.27
増減額(B-A)	△269	△173	△171	△282	
増減率(%)	△7.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	3,909	△249	△268	△565	△48.00

修正の理由

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は本日開催の取締役会において、現行の退職給付会計処理における退職給付債務計算方法を原則法から簡便法に変更することを決議しました。これに伴い平成22年3月期第3四半期(平成21年4月1日～平成21年12月31日)において、下記のとおり特別損失が発生しますので、お知らせいたします。また、この特別損失を含めた最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年11月13日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

1. 特別損失の発生及びその理由

(1) 退職給付会計処理変更の理由

当社グループの退職給付制度は、従来、退職一時金制度と適格退職年金制度でありましたが、平成21年11月1日付で適格退職年金制度を廃止し、退職一時金制度のみとなった結果、退職給付債務が相当額減少したこと及び今後も従業員数が300人を大幅に下回った状態で推移する見込みであることから、退職給付債務の計算方法について、従来の原則法から簡便法に変更します。

(2) 退職給付会計処理変更の概要

当社グループの退職給付会計処理において退職一時金の退職給付債務計算を原則法から期末時点での自己都合退職による退職金要支給額を退職給付債務とする簡便法に変更します。

(3) 業績に与える影響

当社グループの退職給付会計処理を従来の原則法から簡便法に変更することにより、営業損失及び経常損失は5,509千円減少しますが、一方で自己都合退職金要支給額との差額93,570千円を特別損失に計上することから、税金等調整前当期純損失は88,061千円増加します。さらに、適格退職年金制度の廃止に伴い、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準委員会 平成14年1月31日 企業会計基準適用指針第1号)を適用した結果、特別損失26,186千円を計上します。

(4) 今後の状況

会計処理の変更が業績に与える影響については、業績予想の修正に反映しております。

景気回復の兆しは引続き一部業種にとどまる中、受注単価の更なる下落及び受注高の減少により、当第3四半期の業績は予想を大きく下回る結果となりました。第4四半期においては、平成21年12月付で吸収合併したパルフェクト株式会社を、他社との差別化を図る高付加価値商品を、提供する東京プリンティングセンター(高島平工場内)として、新たにスタートさせて業績回復を図る予定ですが、当第3四半期累計期間の減少分を補填するには至らず、また、退職給付会計処理の変更に伴う特別損失の発生を含めて、通期の業績は当初予想を大きく下回る見込みであります。このような認識のもと、当第3四半期累計期間における業績の進捗状況等を踏まえ、平成22年3月期通期の連結業績予想及び個別業績予想を修正いたします。

(注)上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる場合があります。

以上